

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【その他 伝統技術】

1. 都道府県、市町村 熊本県八代市
2. 事業者名 千丁町ひのみどり会
3. 取組みの名称 「ひのみどり」による産地再興
4. 取組概要等

概要

これまで千丁町は、いぐさ栽培・畳表加工を中心とした経営が主体で発展してきたが、い業情勢の変化による畳表価格の長期低迷が農家所得を著しく減少させた。その結果いぐさ作付け面積はピーク時である平成2年の743haから平成13年度には335haと大きく減少し、経営の悪化からいぐさ農家は他作物への転換、廃業にまで追い込まれ、産地の危機的状況に陥った。

そのような中、県では産地の切り札として優良品種「ひのみどり」とその製品であるブランド畳表「ひのさらさ」等が発表されたが、苗が枯れるなど、栽培が難しく、販売面での不安もあり、当初は導入が進まなかった。

一方でいぐさ経営に情熱を持つ農業者は健在で、千丁町の生産農家は、いぐさ発祥の地として古来より受け継がれてきた伝統的日本文化を守り、産地の生き残りをかけて、畳表のブランド確立と農業経営の安定を目指すには、この品種をいかしていく必要があった。

栽培面積は日本一でも、いまだに畳表は備後というイメージがあり「この品種で名実ともに日本一の産地をつくっていきたい」との熱い思いから技術習得の場として品種専用の研究会がスタートした。

だが、先述したように苗が枯れるなど栽培が難しく、販売面での不安もあり、当初導入が進まなかった。その年に「ひのみどり」の普及の問題点の打開を幾度となく協議し、また、ひのみどり会専門部会が中心となり、栽培から加工・流通に当たっての現状分析を実施し、JA、県、関係機関の指導の下、問題点の抽出と解決策を協議し、ひのみどり会主催の検討会や学習会で実践した。

その結果、ひのみどり会組織活動が評価され、平成15年度の農林水産祭、蚕糸・地域特産部門天皇杯受賞の栄誉を頂き、現在に至っては「千丁町ひのみどり会」の栽培・加工技術を手本として、町内外でも「ひのみどり」の普及・拡大が進み、「ひのみどり」普及の牽引役となっている。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
イベント回数	2	2	2	2	2
解説	単位：回				
イベント参加者	10	10	10	10	10
解説	単位：				

活用している地域資源

- ・ひのみどり
- ・栽培・加工技術

## 地域活性化のポイント

### (1) 個人への波及効果

栽培が難しいとされている「ひのみどり」の受け皿として、アンケート調査や技術面のフォローを含め、安心して新品種が導入できるようになった。

何よりも栽培が難しいと言われていた「ひのみどり」を作りこなし、良質な原苗の安定供給ができた。

い業が低迷する中、「ひのみどり」生産に対する競争意識が生まれ、経営に前向きに取り組むようになった。特に当初「ひのみどり」を導入した生産者の意識が高く、「この品種で日本一のブランドを作り上げる」という想いが末端まで浸透し、日頃から生産・加工技術を切磋琢磨し合い、ブランド確立に取り組んでいる。

一般品種と比較して単価の高い「ひのさらさ」等ブランド畳表の加工により、経営の安定が図られた。「ひのみどり」は茎が細く、一般品種と比較して加工時間が長くかかることから、生産される枚数は少ないものの、なめらかで大変美しいことから、評価が高く、現在も高値で取引されている。

### (2) 地域への波及効果

いぐさ栽培面積が減少し、生産意欲が低迷する中、「ひのみどり」を中心として、いぐさ生産者の団結が図られた。栽培の難しいと言われたこの品種に、平成18年は千丁町でも6割以上の生産者が取り組んでおり、高品質畳表の生産と畳表のブランド確立が進んだ。

「千丁町ひのみどり会」の栽培・加工技術を手本として、町内外でも「ひのみどり」の普及拡大が進み、「ひのみどり」普及の牽引役となった。

千丁町をモデルに、県内各地でひのみどり生産者の組織化が図られた(平成14年6月現在：県内ひのみどり部会 計9組織)。また、その活動全体を束ねる「熊本県ひのみどり会」が結成され、「千丁町ひのみどり会」はその中心的な役割を果たしている。高度な加工技術が要求される「ひのみどり」の最高級ブランド「ひのさらさ」に取り組む意欲的な生産者が多く、製品の6割以上を千丁町で占めており、県全体のブランド確立にも大きく貢献している。

## 事業の今後の展開方向

「ひのみどり」とその製品に対する評価が高まるにつれ、栽培面積が拡大する一方で、栽培技術・加工技術の個人差が拡大しつつあり、畳表の品質維持(均質化)が課題となっている。せっかく高値取引されている「ひのみどり」も、品質のバラツキが大きくなれば、製品への信頼が損なわれ、価格低下も避けられない。畳表は工業製品ではないため、全く同じ製品を作ることは困難であるが、土壌条件などの栽培環境、水管理を含めた栽培技術、畳表への加工技術などそれぞれ似通った会員のグループ化を進め、その中で技術レベルを統一し、できるだけ同じ製品として出荷ロットをまとめ、品質の整った製品の安定的な供給を図っていく。

また、「ひのさらさ」をはじめとして、消費地から信頼される「ひのみどり」製品のブランド確立に加え、本年から開始する部会名・生産者等の新たな表示を通して、「千丁町ひのみどり会」の浸透を図り、最終目標である「ひのみどり」による「日本一」のブランドづくりを目指し、日本の伝統である「畳文化」を国産・熊本畳表で守っていく。

